



無所属 加藤美幸

災害被災地支援

被災地へのボランティア活動を支援する考えはありますか。

公費で助成や補助などを行う考えはありませんが、復旧・復興には欠かせない存在であり、積極的な情報発信に努めていきます。

自力での避難が難しい方たちの命を守るために

避難行動要支援者とはどんな方ですか。

高齢や障がいのため災害時に自力で避難することが困難で、特に支援を必要とする方で、毎年名簿を作成します。

名簿はどう活用されますか。

平常時からの個人情報提供に同意された方のみ、自治区や民生委員、社会福祉協議会、警察等へ名簿を提供し、地域の自主防災訓練において自治区や町内会、隣組が避難をサポートし、安否確認や避難誘導訓練を行う地域も増えています。実際に災害が起きた時に

は、情報提供に同意されなかった方の分も含めた避難行動要支援者全体の名簿を避難所等へ届け活用します。

避難行動要支援者のうちハザードマップで示される阿久比川浸水想定区域内や、土砂災害警戒区域内で生活される方の地域別人数は把握していますか。

阿久比川浸水想定区域内の対象者は乙川地区169名、半田地区194名、成岩地区69名です。土砂災害警戒区域の対象者は亀崎地区31名、乙川地区3名、成岩地区1名です。今後は名簿上に情報を掲載し支援体制の充実を図ります。

水防法の改正により義務化された要配慮者利用施設避難確保計画とは、避難経路図の作成や避難誘導の手段、体制を定め、利用者の円滑で迅速な避難確保を図るための計画です。その対象となる施設数や作成の状況はどうですか。

阿久比川の浸水想定区域内で対象となる施設は26か所あり、そのうち16か所は計画作成済みです。残りの10施設に早期作成の支援をしています。



無所属 山本佳代子

民間住宅耐震事業促進と住リフォーム等促進事業を問う

平成29年度末で昭和56年以前に建築された木造住宅のうち、耐震診断が必要とされる数と耐震診断が終了した数とその比率、また改修された数とその比率はどうなっていますか。

平成29年度末で、昭和56年以前に建築され、耐震診断が必要な数は約7,300戸。そのうち、平成14年度から実施している無料耐震診断数は3,345戸で、約46%。耐震改修費補助の数は、平成29年度までに346戸。安全と判定された224戸を除いて、3,121戸に対する比率は、約11%です。

耐震改修にかかった平均費用はいくらですか。

平均約340万円となります。

地域のローラー作戦の進捗状況と今後の取り組みについて、どのように展開していく予定ですか。

自治区単位で、自治区の協力を得て、平成22年度から行っており、本年度からの3年間で、市内対象住宅の個別訪問を終える予定です。その後は重点地区を定めるなどとして、再度の訪問を行っていきます。

第6次総合計画では、平成32年度までに耐震化率95%を目標にしていますが、具体的な考えはありますか。

平成29年度末の住宅耐震化率は84.7%であり、目標の達成は難しいですが、ローラー作戦の継続や、防災訓練などでのPR、耐震改修相談の実施などを行っていきます。

住宅リフォーム等促進事業を導入して、地域経済の活性化と、民間住宅耐震事業の促進を図って欲しいですがいかがですか。

景気の回復もあり、愛知県内でも実施している市町村は、4市町村にとどまっております。現在の制度を優先して行っていくので、導入する考えはありません。

平均約340万円となります。



日本維新の会 無所属 竹内功治

観光振興の取組み

半田市は「山車、蔵南吉、赤レンガ」等、多くの観光資源がありますが全国的な知名度は低いと思います。マスメディアの活用はどうしていますか。

報道機関や愛知県観光協会を通じてマスメディアに情報提供と取材要望を行っています。広報活動として、半田市ゆかりの有名人にふるさと応援大使等を依頼してはどうですか。

今後の検討課題としていきます。

映画等の口ケ地になると知名度UPや経済波及効果が期待できます。市単独のフィルムコミッションを設立して誘致を進めてはどうですか。

現在、愛知県フィルムコミッション協議会と連携して成果もありません。設立は考えていません。半田市出身のアニメーション作家等と連携して、アニメ関係の口ケ地を誘致できませんか。アニメは高い波及効果も見込まれるため、今後の検討課題とします。

ユーザーの動画サイトに口ケ地を誘致してはどうですか。

今まで考えていなかったので検討します。

はんだ醸すご飯は成功と考えていますか。認知度は向上していますが、醸造調味料という枠では漠然としているため、酢を使った寿司にスポットをあてるなど新たな周知に取組みます。

新たな半田名物の食を考えますか。

新たな名物は考えていませんが、特産品の知多の牛や豚等が食べられるお店の紹介を行っています。

観光客は非日常的でありNo.1の観光地を求めています。No.1を目指していますか。

半田市の観光資源をさらに磨き上げ全国にPRして、知名度UPと誘客を図っていきます。半田市のNo.1といえれば山車です。しかし山車会館は無く、祭りの当日位しか誘客できていません。山車の組立やお雛子の見学など、山車を活用した観光振興を考えるべきではないですか。

